

青森抄

山田真砂年

人類に十万年の葉喰ひ

一茶忌や留守居の昼のカップ麺

百年に一秒の誤差去年今年

勾玉のやうに冬蜂死にゐたり

寒星や軒の葉草乾びをる

トンネルに冬の塊ありにけり

冬菊にけふあたたかき小諸かな

冬木立生きるに歩き続けをり

いま舟の形に冬の月の蝕

柚子たわわここにも一人住まいかな

日溜に寒の椿の音立てて

駅前の雪踏んでみるクスと鳴る

青森八句

駅弁匂ふ車内暖房ちと強し

混浴の灯り乏しく虎落笛

踏み入れれば甘く匂へる落葉道

枯木山音無く風力発電機

枯柏漁師の家の潮に灼け

石斧に飢ゑの記憶や黄落期

寺山修司記念館

霧の歌詠みて八戸棄てにけり

バスの後付いて走りぬ枯野原